

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	明石市立山手小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	4	4	1	24	33
児童数	139	108	127	125	146	142	3	790	

研究の概要

1. 研究主題

「一人一人を大切にし、学習意欲の向上をめざして」
 ~ 課題別選択学習を通して、基礎学力の定着を図り
 主体的に取り組む態度を育てる ~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

(1) 算数科

- ・ 6年生では、教科担任が主に授業を進め、学級担任が同室指導を行う。
- ・ 単元によっては、ハーフサイズ(班単位で)に分けて教科担任と学級担任がそれぞれ指導する。
- ・ 単元によっては、習熟を図るため4クラスを5~6グループに分けて課題別選択学習を取り入れ、興味・関心や課題意識に応じた学習集団を構成する。
- ・ 基礎・基本の確実な習得を図るために、教材教具を工夫して作成する。
- ・ 家庭学習は、学習の習熟を図ったり計算力の向上を図ったりすることをねらいとして、担任と連携をとりながら分担して指導する。
- ・ 5年生では、学級担任が授業を進め、教科担任が同室指導を行う。
- ・ 夏季休業中には、学習の遅れがちな児童に対し、基礎・基本の定着を図ることをねらいとして「算数がんばり教室」を全校的に取り組む。

(2) 社会科・理科

- ・ 5年生の学級担任が社会科と理科の交換授業をする。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>○テーマ</p> <p>「個に応じた指導における指導方法の工夫・指導体制の改善」</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校の高学年における学級担任制から教科担任制への円滑な接続を図る。・教員の専門性を生かした指導と個に応じたきめ細かな指導により、学習意欲の向上とともに基礎・基本の確実な習得を図る。・教科担任制や少人数授業を導入することで、開かれた学級づくりを推進し、協力指導体制を確立するとともに児童を多面的に理解する。・児童自ら課題別学習のコースを選択し、学び合う中で、基礎学力の定着を図るとともに問題解決に向けた主体的な態度を育てる。 <p>○研究の内容・方法</p> <p>① 5・6年生算数科</p> <p>6年生では、教科担任（システム推進教員）が主に授業を進め、学級担任が同室指導を行う。5年生では、学級担任が授業を進め、教科担任が同室指導を行う。単元の習熟を図る段階では、児童が自ら課題を選ぶ課題別選択学習を取り入れ、興味・関心や課題意識に応じ、4クラスを5～6グループに分けたり、学級を2分割したりして、学習集団を編成する。基礎・基本の確実な習得を図るために、教材教具を工夫して作成する。特に遅れがちな児童の基礎学力を補充するため、担任と連携をとりながら、給食準備時間を利用して、個別指導をする。</p> <p>② 5年生社会科・理科・・・学級担任が社会科と理科の交換授業をする。</p>
--------------------	---

平成 15 年 度	<p>○テーマ</p> <p>「課題別選択学習(バリュートイム)を通して、個に応じた指導の研究」</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校の高学年における学級担任制から中学校の教科担任制への円滑な接続を図る。・児童自ら課題別学習のコースを選択し、学び合う中で、基礎学力の定着を図るとともに問題解決に向けた主体的な態度を育てる。・6年生における算数科の教科担任の配置、5年生における学級担任の社会科・理科の交換授業による開かれた学級づくりを推進する。 <p>○研究の内容・方法</p> <p>① 算数科</p> <ul style="list-style-type: none">・6年生では、教科担任が主に授業を進め、学級担任が同室指導を行う。・単元によっては、ハーフサイズ（班単位で）に分けて教科担任と学級担任がそれぞれ指導する。・単元によっては、習熟を図るため4クラスを5～6グループに分けて課題別選択学習を取り入れ、興味・関心や課題意識に応じた学習集団を構成する。・基礎・基本の確実な習得を図るために、教材教具を工夫して作成する。・家庭学習は、学習の習熟を図ったり計算力の向上を図ったりすることをねらいとして、担任と連携をとりながら分担して指導する。・5年生では、学級担任が授業を進め、教科担任が同室指導を行う。・夏季休業中には、学習の遅れがちな児童に対し、基礎・基本の定着を
--------------------	---

- 図ることをねらいとして「算数がんばり教室」を全校的に取り組む。
- ② 社会科・理科
- ・ 5年生の学級担任が社会科と理科の交換授業をする。

平成 16 年 度	<p>○テーマ 「課題別選択学習（バリュートイム）における指導方法の工夫・教材開発・ 検証の研究」</p> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題別選択コースの種類について ・ 使用教材について ・ 学級解体が適切なのか 指導の関係・時間的な問題 ・ 指導法の工夫・改善 ・ 児童の自己評価 ふりかえりカードの活用
--------------------	---

(3) 研究推進体制

<p>新学習システム推進委員会 (構成：校長・教頭・新学習システム推進担当2名・各学年代表6名)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任と推進担当の連携を図り、児童を多面的に理解し、指導に生かす。 ・ 教科担任制や総合的な学習の時間の少人数授業の組み方について、学年の指導体制を検討する。 ・ 指導方法について、各学年の取り組みを情報交換し、きめ細かな指導のあり方を推進する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 実践事例

6年生算数科の取り組み（6月）

① 単元名：「立体」（全11時間）

小単元及び時数	指導形態
1.直方体と立方体（5時間）	教科担任（主）と学級担任（副）の同室複数指導
2.面や辺の平行と垂直（2時間）	同上
3.角柱と円柱（2時間）	同上
☆課題別選択学習（1時間）	児童の選択による課題別少人数授業 (全学級を解体し、6グループに編成。教科担任 教員と学級担任4名、教頭の計6名が指導)
◇評価テスト（1時間）	

②課題別選択学習(バリュータイム)の内容

- ・じっくりコース・・・プリントを中心に基礎・基本の復習。
- ・スケッチコース・・・作図を確実なものにする。
- ・タッチコース・・・立体を触って確かめながら、垂直や平行を確実に習得する。
- ・どんどんコース・・・基礎・基本から発展的な問題にも挑戦する。
- ・プロコース・・・いろいろな立体を作る。
- ・ミニ先生コース・・・友だちに分かりやすく教えることで、自分の学力も高める。

課題別選択学習(バリュータイム)の方法

- ア．じっくり・スケッチ・タッチ・どんどん・プロコースの児童はプリントを順番にやっていく。
- ・例＝プリント1ができる 答え合わせをする プリント2ができる 答え合わせをする プリント3をする、という手順で挑戦していく。
 - ・わからない時は、算数の本を見てもよい。
 - ・ミニ先生に教えてもらいたい時は、静かに手をあげる。
- イ．ミニ先生は、他の友だちのじゃまにならないような声で話す。そして友だちにわかりやすく教えることにより、勉強の内容をしっかりと身につけ自分をよりよく伸ばす。

課題別選択学習(バリュータイム)のコース別人数

コース	教室	人数	ミニ先生
じっくり	1組	18	2
スケッチ	2組	21	2
タッチ	2組	7	2
どんどん	3組	30	2
プロ3組4組	4組	28	2
プロ1組2組	児童会室	24	2
ミニ先生		12	

2. 研究の成果

- (1) 教科担任が主に授業を進め、学級担任が同室指導をする指導法について
- ア．教科担任の専門性を生かし、教材教具の工夫をすることで、分かりやすい授業展開に努めるとができる。
 - イ．学級担任が同室指導を行うことで、一人一人にきめ細かな指導ができ、つまずきの早期発見・早期指導を行うことができる。
 - ウ．児童にとっては、学級担任と異なる授業により、気分転換も図られ、心地よい緊張感のもと学習に集中して取り組むことができる。
- ☆一人一人に学習内容がよくわかり、基礎・基本の定着が図られると考えている。
- (2) 課題別選択学習(バリュータイム)の取り組みについて
- ア．学習内容の定着を図るための課題別選択学習は、教科担任制の成果であると考えている。それは、ここで使用する教材プリントは教科担任が作成する。学級担任が算数科の授業を個々に進めた後この取り組みをすることより、教科担任が同じ進め方で指導し、学年全児童の定着度を見据えた上で教材プリントを作成することができる。そのことが一人一人の児童に対応していることに

なるのではないか。また、児童の課題別選択学習への受け止め方も意欲的になるのではないかと考えている。

イ．資料2の課題別選択学習で見られる児童の感想では、がんばってできた・自分の力を知ることができた・自分のペースで学習ができた・友だちと協力してできた・楽しかった・よくわかったなどがあり成果が見られた。

児童は、ミニ先生コースはよくできる子、じっくりコースはできない子というような感覚はまったくなく、自分自身が選んだコースに責任を持ち、自分のペースで学習するという気持ちを強くもっている。

自分の力を過信して上級コースにいったが、自分の力に気づき次回は考えようと思っている児童もいるが、またその反対の児童もいる。

この課題別選択学習をまとめると次のようになる。

- ・児童は自分に合ったコースを選択する。
- ・自分が選んだコースだから学習に対して責任を持ち、友だちに合わせるのではなく、自分のペースで学習することができる。
- ・そのコースが合っていないことに気がつければ、次回は別なコースを考える。

このような学習を通して、一人一人が自らの課題解決に向け、自主的・主体的に取り組む、学習意欲の向上と基礎・基本の定着を図り、学力向上につながるものと考えている。

資料1

アンケート調査より（7月実施・6年生対象）

1. 算数の授業は、楽しいですか。

楽しい理由

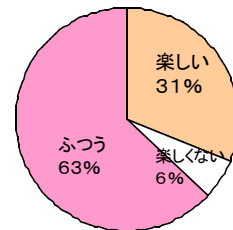
- ・ちゃんと教えてくれる
- ・説明がわかりやすい
- ・算数が好きになった
- ・わかると楽しい
- ・順番に当てる

楽しくない理由

- ・算数のががて
- ・理解ができない
- ・わからないのに当てられるのはイヤ

ふつうの理由

- ・楽しい時と楽しくない時がある
- ・計算は、きらいだけど楽しい
- ・簡単な時は好き、むずかしい時はイヤ
- ・勉強だから楽しいわけでもない



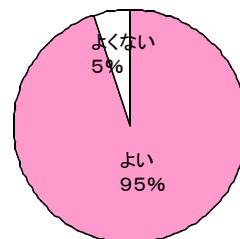
2. 算数を担任の先生以外と勉強することについて、どう思いますか。

よい理由

- ・ほかの先生と勉強するとより真剣にできる
- ・ほかの先生でも発表ができるようになる
- ・いろいろな先生とふれあうことができる
- ・2人の先生にみてもらえるからよくわかる

よくない理由

- ・担任の先生になれている
- ・担任の先生とやり方がちがう



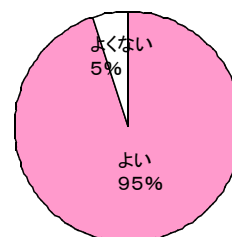
3. バリュータイム(課題別選択学習)を、どう思いますか。

よい理由

- ・自分にあったコースにいき、にがてな所を勉強できた
- ・自分のペースでできた
- ・他のクラスの人ともふれ合うことができた
- ・楽しくできた

よくない理由

- ・むずかしい



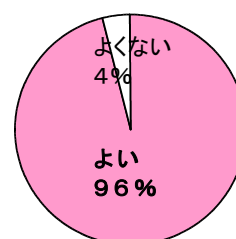
4. バリュータイム(課題別選択学習)のコースを自分で選ぶ方法について、どう思いますか。

よい理由

- ・自分にあわせて、がんばろうと思うコースにいける
- ・自分にあった勉強ができた
- ・自分で選んだ方が勉強しやすい
- ・自分で選んだのでやる気がでる

よくない理由

- ・自分で選ぶのはむずかしい



資料2

単元名「体積」の課題別選択学習(バリュータイム)の取り組み(11月実施)

1. 課題別選択学習の内容

- ・じっくりコース・・・直方体・立方体の体積 大きな体積
P2～P8ぐらいをじっくり勉強したい。
- ・計算コース・・・大きな体積 およその形と大きさ
P6～P12ぐらいを計算してみたい。
- ・どんどんコース・・・じっくりコース・計算コースを含めて
どんどん問題を解きたい。
- ・ミニ先生コース・・・ミニ先生になりたい。友だちに教えて自分を高める。

2. 「課題別選択学習(バリュータイム)ふりかえりカード」より児童の感想

・じっくりコース

- ・じっくりコースは、やさしかったと思います。でも基礎からやったので忘れていたことを思い出しました。
- ・じっくりは、十分できたからどんどんコースでもよかったかなと思いました。
- ・じっくりコースでできた方だから、次は上のコースをやりたいです。
- ・今回は、基本のじっくりにしました。次は、一步レベルをあげて上のコースへいきたいです。
- ・バリュータイムは、自分で選べるし何枚やってもよかったのでバリュータイムがあってよかったです。

- ・じっくりコースは、プリントが8枚あって、僕は7枚しかできなかったけどじっくりできてよかったです。
- ・今回は、すこし計算に時間がかかりすぎて1問だけまちがえてしまったから次回は全問正解したいです。
- ・ミニ先生に2度も助けられながら、がんばってできたからよかったです。
- ・ミニ先生がいたのでわからないところを教えてもらい理解のできるものがありました。Aさんの教え方がわかりやすかったです。

・ 計算コース

- ・自分に合うところを勉強するのは、いいことだと思いました。
- ・わからないことがどんどんわかってくるから、またバリュータイムがやりたい
- ・ミニ先生がいてよかったです。むずかしかったから次はじっくりコースにしようかなと思います。
- ・自分にあったコースができたし、わからないところもミニ先生に教えてもらえてよかったです。
- ・自分にあったコースだから、じゅうぶんわかりました。
- ・いつもの算数だったら授業についていけないけど、コースを選んだらわからないところが理解できるからよかったです。
- ・つかれました。たくさんできたのでよかったです。

・ どんどんコース

- ・あまり次々できなかったの自分にあわせたコースをしたいと思います。
- ・次回は少し下のコースを選び、ゆっくりやってみたいです。
- ・やっぱり「どんどんコース」はすこしむずかしかったの、もうすこし自分で努力しないといけないかな、と思います。
- ・むずかしい問題もあったけど、自分でどんどん進んでいけたのがよかったです。次もがんばりたいです。
- ・自分のペースでどんどんやっていけたので満足でした。
- ・どんどんはできる！と思ったけど、むずかしかったからじっくりか計算ぐらいのほうがよかったです。でもめっちゃ楽しかったです。
- ・バリュータイムは、みんなにあわせて進んでいくんじゃなく、自分なりにできるところがいいと思いました。
- ・いろいろな体積の問題があったので、明日のテスト調べができてよかったです。
- ・どんどんコースは、とてもむずかしかったけど、楽しかったです。

・ ミニ先生コース

- ・教えるのはむずかしいです。
- ・相手にわかるように教えていくのは、むずかしいけどできました。
- ・ともだちのわからないところを教えてわかってもらえるとすごくうれしかったです。だからまたミニ先生をしたいと思います。でもむずかしいコースは、私にもむずかしかったと思います。
- ・ミニ先生は、わかるように説明するのはむずかしいけど、楽しかったです。
- ・B君といっしょに問題をといてむずかしかったけど、協力してできたことがよかったです。次回、もう一回ミニ先生をしてみんなが理解できるように教えたいです。

- ・教えることはそんなに簡単じゃなかったけど自分の言葉で言うことができてよかったです。
- ・ミニ先生は、プリントとかしないけど、人に教えるから自分も勉強になったなと思いました。
- ・教えたら自分でもわからないことがわかりました。
- ・自分には、やっぱりほかのコースの方がいいと思いました。

3. 今後の課題

- (1) 今年度の課題別選択学習(バリュータイム)は、6月「立体」・11月「体積」・1月「分数のかけ算・分数のわり算」の3回を行った。この課題別選択学習をもっと増やし、一人一人が自ら課題解決をすることにより、学習意欲の向上と基礎・基本の定着を図り、より一層の学力向上につなげる。
- (2) 課題別選択学習(バリュータイム)の検証を行う。
「ふりかえりカード」の工夫・活用を行い、児童把握に努め一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図る。
- (3) 個に応じた指導を充実するために学習の遅れがちな児童への学力補充のみならず、進んでいる児童への発展的な学習の充実を全学年通して工夫していきたい。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 第33回明石市人権・同和教育研究協議会研究集会において実践発表
 - ・日 時 ----- 平成15年11月20日 13:00~16:30
 - ・場 所 ----- 明石市立二見西小学校
- (2) 平成15年大久保北地区人権・同和教育研究協議会において実践発表
 - ・日 時 ----- 平成16年2月6日 13:30~16:00
 - ・場 所 ----- 明石市立大久保北中学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無